

**白根開善学校理事長 佐々木克典さん**

広島大学大学院教育学研究科による「ベスタロッチャー教育賞」が20周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

白根開善学校が「ベスタロッチャー教育賞」を受賞いたしましたのが平成9年のことであり、それから14年、本校も多くの皆様に助けられながら群馬県の山深い地で「子供たちの善くなる力」を信じ、小さいながらも教育の営みを続け33年の歴史を刻んでまいりました。

本校の教育理念である「人はみな 善くなろうとしている。」は創立者本吉修二によるものでありますが、校名をつけていただいた本吉の恩師、慶応義塾大学名誉教授 村井実先生、更には村井実先生の恩師である広島文理科大学教育学科のベスタロッチャー研究者であります長田新先生にまで遡るものであります。

「ベスタロッチャー教育賞」は白根開善学校そして本吉にとりまして特別な意味を持っております。この賞はその他の賞とは違い、本吉修二「個人」ではなく「学校の取り組み」に対していただいたものであり、人里離れた山の学校で厳しい自然環境に見事に耐えて生き抜いた子供たち、そして彼らを支えた親たち、教職員が評価されての賞であるといつも嬉しそうに語っておりました。

本吉も80歳を越え教育の現場から離れておりますが、35年前、大学時代に本吉に巡り合い、創立時からの苦勞を共にして来た者として「ベスタロッチャー教育賞」受賞の意味を心に刻み、「人はみな 善くなろうとしている。」という教育理念を堅持し、この山の学校を必要とする子供たちと共に生きて参る覚悟でございます。

ベスタロッチャー教育賞受賞時にいただいたベスタロッチャーの胸像はどなたが来られても必ず目にする学校玄関正面に置かせていただいております。本吉は子供たちから「この人は誰？」と聞かれる度に、この賞の意味、そしてベスタロッチャーについて語っておりましたし、これからは子供たちを始め多くの皆様に語り継いでまいりたいと思います。

東日本大震災を機に日本人の生き方、価値観、そして教育は変わろうとしていると感じております。国の根幹は教育にあります。広島大学大学院教育学研究科の皆様におかれましては日本の教育のため、また、「ベスタロッチャー教育賞」が教育に携わる多くの皆様を後押しする賞として末永く続きますよう益々のご研鑽をお願いすると共に、これからも白根開善学校を暖かく見守ってくださいませようお願いいたします。

**「ねむの木学園」理事長・俳優 宮城まり子さん**

ベスタロッチャー様

私の心の中に入って下さって25年、私の家にいらっしゃって下さってから20年たったのですね。青銅でつくったあなたのお顔から孤独と貧困と、けれどあふれ出る愛、限りない愛の力が深っています。大抵、泣き出しそうな時ですが、私は、コンニチワとはほえんでしまします。「負けるのですか」。そんな時、「おかあさん」とドアを開けるのが子どもたちです。愛って幸せですね。ベスタロッチャー賞を頂いて夢のように東京に帰って来て「おやさしいけれど、お強いね」と話しかけます。世の中が混乱している時、自然が怒っている時、改めてベスタロッチャーを読み出しました。新しいお顔が見えました。今、必要なお姿が見えました。広島大学大学院教育学部さま。今、ベスタロッチャー様、あなたが求められています。水色の雲に乗って、さあ、早く。待ってます。

**映画監督 山田洋次さん**

受賞の驚き

ぼくにとっては仰ぎ見るような偉大な学者である長田新先生を記念して作られたと云うこの賞をいただけると聞いたときは、なにかの間違ひではないかと思ったものです。ぼくは教育の実践者でも研究者でもない、一映画監督なのですから。たまたまぼくがまえまえから関心を持っていた夜間中学を舞台にした作品『学校』を製作したことを教育者の見地から評価していただいた、と云うことだったのですが、本当に有り難く、感激したことでした。

広島大学で授賞式を終えたあとの先生たちとの歓談の場の雰囲気がとても和やかで楽しく上品で、あゝ教育者というのはこういう風格の人たちなんだと感じ入ったことをよく憶えています。

子供たちを巡る教育環境の荒廃、特に教師たちに対する非民主的な管理が厳しい今日にあって、このベスタロッチャー賞の持つ意味は極めて重要であると思います。20周年のお祝いを申し上げますと共に25年30年と力強く続けられることを受賞者の一人として心から念願しています。

過去の受賞者の方から寄せられたメッセージ

#### 広島新生学園園長 上栗哲男さん

「被爆地広島廃墟の中から出発し『慈愛は勝つ』の信念を貫き通したのはベスタロッチャーの教育理念にかなうものである」として平成11年に名誉あるベスタロッチャー教育賞を受賞しました。ちょうどその時期、全国児童養護施設長研究協議会が広島市内で開催されていて、新聞で報道され協議会に参加していた施設長達から「これは素晴らしいことだ、児童養護施設の誇りだ」という言葉を聞き、大変嬉しい思いをしたことを覚えています。

あれから12年、施設に入所してくる子供達は以前にも増して被虐待児が多くなっています。

親と離れた集団生活の中で、1日でも早く親元に帰れることを祈って頑張っています。今、広島大学の学生達が毎週土・日曜にマンツーマンでボランティアの学習指導をしてくれています。子供達の中には学習意欲が増し、大学へ進学したいという子供もいます。今後とも援助をお願いするとともに、広島大学の一層の発展をお祈りいたします。

よろしくお祈りいたします。

#### アグネス・チャンさん

20周年、本当におめでとうございます。

第14回ベスタロッチャー教育賞を受賞した時のことを思い出します。大学で講義をしたり、ユニセフ活動で子供達を支援させていただいたり、いつも次世代の事を考えながら活動している私にとって、受賞は大きな励みとなりました。

この受賞の重みを感じつつ、発展途上国における教育の推進や、日本の子供達が国際教育への理解を深めるための活動などに、なお一層の努力を続けているところです。

東日本大震災は、日本の子供だけでなく、世界の子供達にも大きなショックを与えました。

今こそ教育の力で、子供達の心を和ませ、夢を見る希望を与え、より強く明るい子供達を育てるために力を尽す時だと思っています。

より良い世界を作っていくために、広島大学を始め、ベスタロッチャー教育賞に関わっている全ての方に、是非、これからも沢山の教育者を応援し、励まし続けていただきたいと思います。

過去の受賞者の方から寄せられたメッセージ

#### 愛育学園理事長 津守眞さん

ベスタロッチャー賞の受賞は、何よりもうれしいことでした。どんな賞よりも、私には意義深いものでした。ベスタロッチャーは1746年生まれですから、私とは時代が違います。私は現在85歳になり、ベスタロッチャーの年齢を超えました。子どもと一緒に生きる人がどの時代にもいるということについては、今も変わりません。私もそのひとりになれたことを感謝しています。そしてこれからも子どもと共に生きる若い人が絶えることはないと思っています。私は今も子どもの傍らに時間を与えられています。この中で一緒に働く次世代の人たちにとって良い時代になることを祈っています。

#### NHK名古屋放送局「中学生日記」チーフ・プロデューサー 滝沢昌弘さん

ベスタロッチャー教育賞創設20周年、誠におめでとうございます。これまでに受賞された方々のお名前を拝見し、あらためて賞をいただいたことを光栄に思います。

今年、NHK名古屋放送局が制作する「中学生日記」も、放送開始から50年目を迎えました。この間、中学生を取り巻く状況は大きく変わりましたが、番組は、一般の中学生の体験や悩みを取材して脚本化し、一般の中学生自身が演じるという独自のスタイルを守り続けてきました。皆様の応援に支えられながら、時代、時代のリアルな中学生の姿を記録し、問題提起し続けてきたことの意義は、小さくないのではないかと考えております。

今後もベスタロッチャー教育賞が、教育の分野で汗を流す方々を励まし、勇気づける賞としてさらに発展されますよう、心より祈念しております。

過去の受賞者の方から寄せられたメッセージ

「ネパール学校建設支援協会 In ひろしま」代表 松田實さん

2008年11月に受賞後、久しぶりに西条中学のクラス会(昭和31年卒)に参加した。84歳を迎えられた恩師榎野野司先生から「立派な賞をいただいたね」と。また2009年4月にはネパール初代大統領のラム・バラン・ヤダブ氏を表敬訪問した際、「日本の多くの人々から支援・協力を受け勉強ができることは誠に有難い」と感謝の意を述べられ、激励と労いを受けた。

これまでに何度も「学校は出来ているのか」「子供たちは学校へ来ているのか」等々が耳に入るたびに「俺は何のために尽力しているのか?」と、挫折を繰り返しながら、「もう辞めた」「これを最後に今度訪問したら止める」と言い続けてきた。

2011年3月にガン再発転移の為、甲状腺気管の切開手術をし、器具の挿入から声の発声が多少なりにも困難となり、ネパール訪問の中止を余儀なくされていたが、本年の11月にはネパール訪問することを医師にも伝え、完成式典を3校、礎石祭を3校実施することになっており、現地の子供たちや村人たちも楽しみにしている。

こうしてベスタロッチャー教育賞を受け、多くの人々から励まされ、勇気と感動を忘れることなく、これからも精進努力を続けたいと考えている。

私には「我道一以貫之」しかないのかもしれない。

過去の受賞者の方から寄せられたメッセージ

北陸学院大教授 金森俊朗さん

広島大学大学院教育学研究科によって創設されたベスタロッチャー教育賞が20周年を迎えられることに對し、心よりお慶び申し上げます。同時に、ベスタロッチャー研究の継承発展にとどまらず、ベスタロッチャーの精神を実践する人々に対して顕彰し、その活動を社会に広げる事業に取り組まれている関係者の方々のご労苦に深い敬意を表します。

私は19回目のベスタロッチャー教育賞を頂きました。本当にありがとうございました。長年、実践研究を共に続けてきた教師仲間たち（日本生活教育連盟、いしかわ県民教育文化センターなど）はもちろん、平和・人権・環境問題・映画・演劇などの市民運動にかかわる仲間・知人やかつての保護者たちも自分のことのように喜んでくれました。教育関係者外の彼等の多くは、「金森さん、ベスタロッチャーって一体どういう人?」って必ず尋ねます。ベスタロッチャーの実践・思想、長田新先生のこと、特に『原爆の子』を編集・出版したことや「日本子どもを守る会」の初代会長であったこと、ベスタロッチャー研究と教育賞に込めている広島大学の現代教育に対する熱い思いなどを話すこととなります。多くの方は「やっぱり金森さんは超すごい人!」と言います。すかさず、「すごいと言われるなら、そのすごさを育ててくれたのは、皆さんと子どものお陰なんだから」と応えます。そこから、教育改革や教師養成に対する市民と子どもの役割についての議論が深まります。これこそベスタロッチャー教育賞の意義の一つだと思っています。

受賞後も執筆・講演活動と多忙な日々です。今、学校関係者以上に医療・福祉、学童保育関係者や保護者、一般市民に対する講演が多くなっています。生きづらさに苦悩する子どもや大人に寄り添い、身体が発する声なき声を聴き取るキャッチャーであることを訴え、共に歩む大切さを強調しています。

「民衆教育の父」と呼ばれたベスタロッチャーとその教育賞に励まされて歩んでいます。

パネル編集

中野 浩史 (教育学研究科博士課程前期2年)

西川 珠美 (教育学部4年)

久恒 拓也 (教育学研究科博士課程前期1年)

福永 脩 (教育学部2年)